

## 日本薬理学会主催市民講演会『病気&くすりとの上手なつきあい方』での講演

演題：ドキッ！ 心臓病の不安 狭心症と心筋梗塞

講師：笹栗 俊之

参加者：一般市民

日時：2003年11月22日(土) 13:00～16:30

場所：大分県労働福祉会館ソレイユ(大分市中央町)

概要(当日配布パンフレットより)：

狭心症と心筋梗塞は、心臓に酸素を送る血管(冠動脈)が動脈硬化のために狭くなったり詰まったりして起こる病気です。酸素を送る血液が不足して起こるという意味で、これらの病気を「虚血性心臓病」とも呼びます。だれでも年を取るとともに動脈硬化は進みますが、高血圧・高脂血症・糖尿病・肥満・喫煙習慣などがある人では、より速やかに進みます。運動不足や過剰なストレスも動脈硬化を促します。もしこれらを避けることができれば、動脈硬化の進行は遅れ、虚血性心臓病は予防できます。

たとえ動脈硬化で血管が狭くなるとしても、時間をかけてゆっくり狭くなれば心臓は適応できます。しかしコレステロールなどの脂質が血管の内壁にたくさん溜まると、内壁はもろくて綻びやすくなり、もし綻びると血管の中に血のかたまり(血栓)が急速に生じ、あっという間に血管が詰まってしまいます。こうなると心臓が適応する時間がありませんので、狭心症の症状が急に現れたり、症状が悪化したり、ひどい時には心筋梗塞を起こしたりします。

もし狭心症の症状が現れたら、血管を拡張し心臓の負担を軽くするため、硝酸薬(ニトログリセリンなど)・カルシウム拮抗薬・ベータ遮断薬などの薬を用います。これで胸の痛みなどが治まります。また病気の進行を予防するため、抗血小板薬や抗血栓薬などを用いることもあります。薬だけでは不十分な場合、血管を拡張する手術や、血管を取り替える手術を行うこともあります。

今日は、動脈硬化を予防するにはどうしたらいいか、狭心症になったらどのようなことに気をつけて生活すればいいか、なかでも「予防薬・治療薬とのつきあい方」に重点を置いてお話ししたいと思います。